

令和5年度 第2回山鹿市総合教育会議 議事録

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 令和6年2月21日(水) 9時30分 |
| 場 所 | 山鹿市役所(4階401会議室) |
| 出席者 | 早田市長、堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市職員：大林総務部長、中尾教育部長、園田教育部首席審議員、佐藤教育部次長兼学校教育課長、吉野首席教育審議員、永田教育総務課長、山西学校教育指導室長、内古閑学校教育指導室審議員、古奥学校教育指導室審議員、西島生涯学習・スポーツ課長、井上文化課長、坂本教育総務課長補佐、中満学校教育課長補佐、長瀬学校教育課長補佐、古川生涯学習・スポーツ課長補佐、堀生涯学習・スポーツ課長補佐、稲葉生涯学習・スポーツ課係長、徳永教育総務課長補佐、井上教育総務課主任 |
| 傍聴者 | 4名 |

1 開 会

2 議 題

「子どもの体力向上」について

3 その他

4 閉 会

| 発言者 | 発言内容 |
|--------------|--|
| 永田教育総務課長 | <p>令和5年度第2回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「子どもの体力向上」についてとなっております。</p> <p>本件議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開とします。</p> <p>また、会議の時間につきましては、1時間程度を予定しておりますので、ご協力の程よろしくお願ひします。</p> <p>なお、本日の会議には現時点で4名の傍聴者の方がおいでになられています。それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p> |
| 早田市長 | <p>皆様、おはようございます。本日は第2回総合教育会議ということで、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>昨日、記者会見をいたしまして、工業団地の整備ということで約30年ぶり、東部工業団地においては40年ぶりになります。場所はカルチャースポーツセンターの近くということを発表させていただきました。</p> <p>合併して山鹿市は人口がどんどん減少し、12,000人以上が減っています。この12,000人の人口というのは鹿北町と菊鹿町が無くなったぐらいの規模で減っています。そういった意味では今回の起爆剤で企業がどのような反応をされるか分かりませんが、とにかくしっかりPRして働く場所を確保していかなければなりません。それに伴って若い方々が、おそらく近くに住んでいただけるのではないかと思います。</p> <p>そういったことを考えますと、あの近くで八幡小学校、山鹿小学校、山鹿中学校、大道小学校、そして鹿本方面もTSMCに近いということで家もだいたい建ってきています。</p> <p>おそらく教育委員会で試算されている子どもの数も予想より緩やかになってくるのではないかと思います。緩やかにしなければなりません。そういったことから子どもの環境も変わってきます。工事等々も始まりますと、交通安全の問題や学校の環境の変化等もあります。</p> <p>今日は子どもの体力向上ということですが、3月の議会では健幸都市宣言をいたします。これはお年寄りの健康だけではなく赤ちゃんからお年寄りまで幅広い中での健康に関する事業というものを全ての部署に渡って進めていきます。</p> <p>自ずと教育委員会としては小・中学校の健康をどうやって維持していくのか、これが大きな課題になってくると思います。そういった面も考えながら、人口減少がどうなるのか、その中での子どもの環境、そして体力向上をどうしていくのかということをおと皆様と議論ができればと思っています。</p> <p>それでは、まず事務局より説明をお願いします。</p> |
| 古奥学校教育指導室審議員 | <p>学校教育指導室の古奥です。</p> <p>子どもの体力の現状等についてご説明します。</p> <p>近年、コロナ禍における生活の変容、スクリーンタイムの増加と運動体験の二極化など子どもが体を動かして遊ぶ機会や遊び場が減少しています。また、県下、全国で学校の統合編入等が進み、スクールバス等での通学、小学校運動部活動の地域</p> |

移行も体力低下の背景となっていると考えられます。

山鹿市スポーツ推進計画についてと、体力・運動能力、運動習慣等調査について、また体力向上の取組の現状についてご説明いたします。

資料 2 ページは、山鹿市スポーツ推進計画です。続けて 3 ページをご覧ください。次世代を担う子どもの運動・スポーツの推進を重点事項に基本方針 1 「やってみよう！」ということで位置づけられています。

次に、全国の体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をご説明します。

4 ページをご覧ください。国公立の小学校 5 年生及び中学生の 2 年生を対象とした悉皆調査です。小学生が 99 万人、中学生が 92 万人実技テストを受けております。実技テストは 8 項目に渡り、その項目を体力合計点として評価基準表に基づいて体力の様子を表しています。

次に、資料の 5 ページ、6 ページをご覧ください。令和 5 年度の全国の体力・運動能力、運動習慣等の調査の結果です。5 ページが小学校、6 ページが中学校の体力合計点を表しています。

児童生徒の体力につきましては、体力合計点について、令和 4 年度との比較では回復傾向がみられますが、令和元年度、コロナ前の調査水準には至っていません。また、令和 4 年度と比較すると、小・中学校ともに回復の度合いに男女間で差があるということです。

続いて 7 ページ、8 ページをご覧ください。これは全国と熊本県を比較したグラフになります。この結果から分かりますように、大体、全国と同じような傾向が見られます。

細かく見ていきますと 9 ページをご覧ください。種目別平均の熊本県と全国の比較になります。黄色箇所は本県の平均が全国を上回っている種目です。中 2 男子においては、全ての種目で上回っています。

このような結果から見える熊本県の課題として、①体力合計点がコロナ前の水準には至っていないということ。②1 週間の総運動時間がコロナ前の水準には至っていないこと。③令和に入ってから生活習慣に変化が見られ、スクリーンタイムが増加しているということ。④肥満傾向児童生徒の出現率が高いということ。⑤「運動やスポーツが好き」と答える児童生徒の割合が全国と比べて低いこと。特に女子の結果に低下傾向がみられるということが挙げられています。

次に、11 ページ、12 ページには学年別県平均と山鹿市の平均になります。赤囲みは県平均を下回っているものです。下回っている項目を見ますと、男子のほうでは 48 項目中 12 項目ですので 25%の項目で下回っていますが、75%は上回っています。12 ページの女子では 48 項目中 13 項目が下回っており、27%が下回っていますが、73%が上回っている状況です。

次に 13 ページ、14 ページをご覧ください。これは中学校男子と女子の結果を表しています。赤囲みは県平均を下回っています。中学校男子におきましては 1 箇所のみです。中学校女子におきましても握力の 2 箇所だけ下回っています。体力の合計点を見ますと、中学校の女子は総合評価が B 評価になっておりまして合計点も県平均より上回っているということが分かります。

また、本市の米野岳中学校においては、中学校の部で体力優良優秀実践校に選ばれまして体力の向上の実践を進めているところです。

| | |
|------|---|
| | <p>次に 15 ページ、16 ページをご覧ください。熊本県体力・運動能力調査の質問紙調査の結果を熊本県と山鹿市を比較したものです。</p> <p>「運動やスポーツをすることが好きですか」という項目に関しては、山鹿の子どもたちは、「どちらかという嫌い」という割合が県平均より高くでています。「好き」と答えている児童生徒の割合が県平均を下回っている状況です。</p> <p>では、その理由はと尋ねたところ、運動やスポーツをすることが嫌いな理由として、小学校 4 年生から中学校 1 年生に「苦手である。うまくできない」と回答する割合がやや高い傾向になっています。これは運動することの心地良さでしたり、運動の特性や本質に触れた楽しさの体験が不足しているということが一因にあると考えられます。</p> <p>続いて 17 ページをご覧ください。1 週間にどのくらいの時間運動やスポーツをしているか。体育の時間を除いた結果です。1 週間に運動やスポーツに親しんでいる時間が 60 分以下の子どもが多いことが傾向として挙げられます。特に山鹿市の 4 年生では 25%を超えて、5 年生 6 年生でも同じように 25%、26%の子どもたちがスポーツに親しむ時間が減っている傾向がみられています。</p> <p>こういった状況の中で、各学校や地域でどのようなことをやっているかと言いますと、18 ページをご覧ください。小学校の取組です。体育授業の工夫改善を行っております。学年ごとの体力の実態を分析し、年間を通して重点的に実施している。授業の導入で体力向上につながる補強運動を毎時間で全学年実施している。運動時間を 30 分確保している。ICT 活用しながら児童の動きを映像として視覚的につかむことを実施している。児童が「わかった」「できた」と実感し、楽しいと思える課題解決型の授業実践をしている。</p> <p>運動の日常化・習慣化に向けては、各児童会の委員会によるレクリエーションや運動遊び大会を定期的実施している。外遊びを奨励している。持久走大会、縄跳び大会等の行事を通して達成感を味わわせる取組をする。朝の活動でペース走を実施している。学期 1 回の校内体力テストを実施し、全校あそびの実践と回数を増やしている。遊び場の確保と設置をしている、などの実践がされています。</p> <p>19 ページをご覧ください。中学校では保健体育授業の工夫改善として、学習展開を工夫して、「できた」という達成感を味わう実践をしている。補強運動の内容を精選し実施方法の工夫をしている。生徒自らが考えた補強運動を実施している。運動量を確保している。保健と体育授業を関連させた授業づくりをしている。</p> <p>運動の日常化・習慣化では、昼休みの運動場所の提供と道具の貸し出し。生徒会の体育委員会主体で体力の課題の提示、解決に向けた取組の実施。ミニ体力テストの実施。生徒が主体となって活動していくことを推進している。このような実践が行われているところです。</p> <p>今後、子どもたちが楽しみながら体力を高めることができる運動機会を創出していくこと、また教員の体力・運動能力向上に対する意識の高揚が求められるところです。</p> <p>説明は以上です。</p> |
| 早田市長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、論点①「子どもの体力の現状やその背景について、どのように考えるか。」についてご意見をお願いします。</p> |

| | |
|------|--|
| 野口委員 | <p>子どもの体力低下はご説明があったとおり全国的にも明らかです。山鹿市も例外ではないと思います。山鹿市では中学校は大丈夫ですが、小学校は課題があって、この小学生が中学校に行ったときにどうなるのかということは心配しています。</p> <p>この論点に、背景についてどのように考えるかとありますが、議題に書いてあるような背景だと思います。</p> <p>ただ、スクールバスのことで議論が上がっています。歩いてくる距離が少なくなるとどうこうという話が上がっていますが、これは体力の底上げにこれまでは田舎独特の遠距離通学ということが底上げに貢献していたと、これを元に戻そうということではなくて、これまでが底上げに貢献しています、じゃあやっぱりきちんとその体制の中でどう積み上げていくかということだと思います。あまりスクールバスに特化して考えることではないと思います。</p> <p>あとはスクリーンタイムの話もありますが、これはなかなかどうこういう話ではなくて難しいと思いますから、そういう現状を知った上でどうやるのかということのほうが大事だと思います。</p> |
| 野中委員 | <p>これをいただいて、データのご説明がありました。これが本当に深刻な課題になっているとは私は思えませんでした。総合教育会議で話し合うようなことなのかと正直思いました。ただ、健康づくりのお話が前回ありまして、それとの絡みでおっしゃっているとは思いました。</p> <p>学校でいろんな手立てができるし、やっています。現在、部活動等の問題もありますが、これから先、学校で使える時間が増えるわけではないです。そうすると目先のデータを上げることよりももっとじっくりと時間をかけて、市民の健康に関わることを考えていかなければならないのではないかと。10年後20年後のことを考えてです。</p> <p>そういったことを考えていました時に、2ページ目にスポーツの定義がありましたが、私たちがデータを取ったり、学校の競技スポーツであったり、そういうところに重きを置いて物事を考えてきました。</p> <p>ですが、実際には遊びの場を子どもたちが遊びに使う時間がどうだったのかということが、部活動の移行もあってどのくらい具体的に自由に使える時間に繋がっているかということはデータがないので言えませんが、それでも外遊びの時間が非常に減っているということですね。体力も握力が一番落ちていますが、そういう動きを子どもたちが小さい頃からしていません。</p> <p>私はできたら市の施設で欲しいと思っていることがあります。それは総合的に体の力を高めていくためのアスレチック施設です。それが山鹿市はとても少ない気がします。そういうことを思ったときに、予算の問題があるじゃないか、お金がないじゃないかという話につながるかもしれません。</p> <p>ただ、あんずの丘にとりあえず紹介されるようなものが一つありますが、あそこは子どもから大人まで利用されています。ああいうものをつくる時にお金が掛かりますけれど、子どもから大人までいわゆる体力づくりだ、向上だなんだということではなく、楽しんで体力づくりができる施設ができないものかと考えていたところです。</p> <p>なぜそこに至ったかといいますと、この前、青少年健全育成大会の時に、鹿北中学校の生徒が森づくりの話をしていました。その話からも考えたのですが、森林環</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>境譲与税というものがございます。それが実際にはどう使われているか調べてみました。調査研究費ということで毎年 300 万から始まって 5～600 万まで伸びていましたが、その他に基金、ちょっと待ってよ、全国を取組を見ると、そこに子どもたちに関わるようなことができています。</p> <p>そういうところのお金を使えば、この間の鹿北中の取組にしてももっとバックアップができます。そして、森林環境譲与税の使い道は、言葉は悪いですが森林組合に丸投げの状態で、ちょっと知恵がだせていないと思います。</p> <p>そういう多額の財源があるじゃないか。そういうのを活用して、それこそ体づくりもだけど、山鹿市の多くを占めている森林の環境を守っていく。そういう取組、国が作って下さっているお金、山鹿市に下さる財源を用いて、これを挙げるということが 1 年先 2 年先ではなくて、何かできないかと強く思います。</p> |
| 上田委員 | <p>総合教育会議の中で、子どもの体力向上がテーマになるということの意義やねらいをしっかりと押さえていただきたいと思います。</p> <p>その時に、総合教育会議でこのテーマで話し合うとしたら、学校はこういう資料で現状が全部見えてきます。だからここをこうしようというのがありますが、教育委員会として学校の支援、あるいはその他の支援を今までどういことをやってきたのか。市長部局としてスポーツ推進計画もできていますが、この点についてどうい支援をしてきたのかということをお話していただきたいと思います。</p> <p>背景はいろいろなことがあって、私たちは学校から帰ったら外に出ていろんな年代が集まって缶蹴りをしたり、鬼ごっこなどをして遊んできましたけども今の子どもたちはそれができない現状です。じゃあ、どうしたら子どもの体力がつくのかを中心に話し合っていないと 1 時間では辿り着かないと思います。</p> |
| 立山委員 | <p>時代の流れと言ったらあれですが、スクリーンタイムなどいろいろあって体力は落ちてきていると思います。私たちの時代は季節に応じて夏は水泳をしたり、冬は野球をしたりとかサッカーをしたりいろんな体力・体を使うことができました。</p> <p>今はクラブ活動に移行して、自分の好きなスポーツで偏った筋力しか使っていないので、厳しいと思います。</p> <p>地域によって、ハッスルタイム等をして週 2 回運動場や体育館を走ったりして、いろんな努力はされていますが厳しいと思います。</p> <p>あとは地域の方からの協力を得て、スポーツイベントなどをやっていくのもいいかと思いました。</p> |
| 早田市長 | <p>それぞれ論点①についてお話をいただきました。</p> <p>私もコロナの影響も多少あったとは思いますが、小学校でこれだけ体力が落ちてきている背景というのは部活動が社会体育になって、できる人とできない人の差が出てきているのではないかと思います。</p> <p>それとスクールバスです。親は安心・安全を求めてバスを利用して子どもたちを行かせたいという考えですが、ある地域からは歩いて通っている子どもたちを、この地域もスクールバスに乗せるよう要望があったりします。そういうことをするとまた体力が落ちると思います。</p> <p>ですので、その辺のカバーがきちんとできていないのではないかと思います。その辺をしっかりと議論して行って、ある程度、体力低下をなくしてやることで子</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>どもたちが中学校、高校、社会にでて運動の楽しさや体を使い健康を維持することに繋がっていくのではないかと、今回の体力向上についてご意見を頂きたいと思いました。</p> |
| 堀田教育長 | <p>現状から言って、本当に体育の授業で体力を高めるということは限界がきました。小学校の5年6年で体育の時間は、週2.5時間で年間90時間、中学校も同じで90時間です。体育にも単元があるので体力向上だけに時間も使えないという現状があります。</p> <p>それから先ほどもありましたように、小学校の部活動が社会体育に完全に移行しました。山鹿小学校あたりは部活動が随分在りましたが無くなってしまいました。中学校もだんだん社会体育移行で、例えば、山鹿中学校も全員部活動参加にしていますが、希望参加に変えています。もちろん社会体育に行く子もいます。だけど社会体育に行くというのはお金がかかります。そこで家庭の貧困の差がでてきています。</p> <p>こういう現状を考えたときに、今後どのようにして子どもたちの体力を上げていくかというのは、一番力を発揮するのは地域の力を借りるということです。今も鹿北や菊鹿でマラソン大会などがあっています。めのだけ小もどろんこ祭りなどをやっています。そういう地域の行事を行政として支えて協力していくことが大事です。例えばマラソン大会をするとすると子どもたちも練習します。</p> <p>行政と地域と一体となって、体力に向けてのことをやっていたいことにしっかりと支援していかないといけないと思います。</p> |
| 早田市長 | <p>冒頭で赤ちゃんからお年寄りまでの健康ということを書いて、要は健康寿命を延ばさないと医療の負担などいろんなところで影響がありますし、ご本人の幸せにもつながっていくと思います。</p> <p>子どもの時から体を動かす楽しさなどをしっかりと身につけていただきたい。田舎に住んでいると、どうしても車を停めるにしても一番近くの歩かないところに停めようとして。東京などに行くとき知らぬ間に電車に乗ったりして、1万歩くらい歩いています。たぶんお年寄りもあちこち軽トラで行かれる方で、農作業される方は別でしょうが、たぶん何百歩か何千歩くらいしか歩かないと思います。車を使うことが田舎は多いから、子どもたちもだんだん体を動かさない不健康な状況になっていくのではないかと思います。</p> <p>その辺は大人から考えを変えて、少しでも歩くことや知らぬ間に運動していたなどの取組を小さい頃からしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>それでは時間も限られておりますので、論点についてまとめてお話を聞かせいただければと思います。</p> |
| 野口委員 | <p>やはり運動というのは健康づくりの基本だと思いますので、そこを何とかしていく。本当は家庭や地域でひっくるめて見なければいけないのですが、やはりポイントは小学生だと思います。これこそ小学校の取組にかかってくる部分が大いのではないかと思います。地域もいろいろ工夫していただいています。それにお手伝いも市としてされていると思いますが、なかなかそこは動かすのは難しいです。学校で頑張っている皆さんには手っ取り早いと言ったら失礼ですが、でもそこが一番ポ</p> |

| | |
|--------------|--|
| | <p>イントではないかと思えます。</p> <p>いろんなことを頑張っていると思いますが、そこにどういうことを入れていくか。運動しますよ、スポーツしますよ、ではなくて遊びの要素をどれだけ入れられて皆が楽しくやれるかという工夫をしていただくといいと思えます。</p> <p>私がこのデータの中で一番引っかかったのは、「運動やスポーツをすることが嫌いな人」が多いということです。そして、その理由として「苦手である。うまくできない」という回答が県平均より高いということが引っかかります。</p> <p>運動は好きでなくてもいいのですが、嫌いな子は無くさない健康づくりしましょうなどと言っても乗ってきません。そこをどうやって小学校のうちに、学校教育の中でどんなことがやれるのかというふう考えたのですが、今、めのだけ小に体育専科で先生がおられます。全学年ずっと見ていかれます。その中でうまくできないという子どもを少しでも無くすやり方をせつかくこういうテストケースがありますので、体育の専門の先生方の知恵を集めて、その取組のやり方を研究されて山鹿モデルみたいなものを作っていけないのかということが引っかかったことです。</p> <p>運動はできないから楽しくない、楽しさを知らないからやる気がない、そこをできたことによる楽しさ、そういうのを教えられるようなプログラムを、体育専科の先生お任せではなくてたくさん体育の先生がいらっしゃいますから、その辺を保健の先生と一緒に一つ一つのモデルができたらいいかと思えます。</p> <p>誰一人取り残さないという教育も運動ができないという子どもも作らないという方向にも目を向けていただけたらいいかと思えます。</p> |
| 早田市長 | <p>私もデータを見ていて、今の件は気になっていました。11 ページ、12 ページで3年生4年生は赤囲みが少ないのですが、何か要因があるのでしょうか。</p> |
| 古奥学校教育指導室審議員 | <p>特に要因はございません。学年差というのは毎年出てくるころではございます。ただ、3年生4年生が少ないというところは、一つは体を動かすゴールデンエイジと言われている時期ではあります。子どもたちが活発・活動的に動く学年ではあります。</p> |
| 堀田教育長 | <p>今の件で、好きとか嫌いと言われたときに子どもたちは鍛われるのは嫌いです。以前みたいに、運動場を10周走ってきなさいなどと言うと、子どもたちは絶対に嫌います。そういうことで子どもたちは外に出ないから、食わず嫌いではないが遊びも知らないのです。そういう中で体力向上ときたら嫌いと書きます。</p> <p>このアンケート自体が単純に好きとか嫌いでは捉えるのではなくて、もっと掘り下げないと簡単にはいきません。本当に好きになったら、きついても好きと書きます。</p> <p>一番に言っているのは、そういう楽しんですることや好きになるとかで、どんどん参加しているのは地域でどろんこ遊びをさせてもらったりしていることです。</p> <p>とにかく今の子どもたちは外に出さないといけません。温暖化で外に出すと熱中症で学校管理下だから学校も強く言わないです。以前は昼休みに早く外に出なさいと押し出していました。そういう指導ができなくなりました。そういう背景もあります。</p> <p>市長が健幸都市宣言をされますが、遊び場というのがあって、子どもたちが自然に家から外に出るといふこと。そういう遊び場・遊具があったら出ていきます。菊鹿のあんずの丘は、土日に満杯になっています。そういう施設を行政として健幸都</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>市宣言をされる時に、遊び場じゃないですが自然に集まってくるようなことを考えて行かなければなりません。</p> |
| 上田委員 | <p>あんずの丘に関して言えば、山鹿市で唯一の遊び場という感じですが、もう随分古くなって危険な状態です。そこは確認をお願いします。</p> <p>先ほど、教育委員会と市長部局の役割、支援をどうするのかと言いましたが、例えば小学生が低下している項目が多いですが、小学校の担任の先生は体育が専門の先生ばかりではないわけですから、実際に指導をどうしたらいいのかがまだ十分把握されていないところもあるのではないかと思います。中には教科担任制で体育の専門の先生が教えているところもあります。そういうところは効果が違ってきているのではないかと思います。</p> <p>それから先ほど出ましたように、めのだけ小学校の専門の先生が全部を見ておられますから、子どもたちは専門性のある指導を受けてどんどん延びてきているはずですが、ところが、そのデータが無いのです。専科ではなく何でも教える先生が担任している学級と教科担任制でやっている学級、それから専門の先生がいるところの学校の実態を比較検討して、やっぱり専門の先生が必要だったら、市長部局にしっかりお願いして予算獲得をやっていただきたいと思います。</p> <p>山鹿市が健幸都市づくりで子どもの体力を向上させたい、小さい時から大人になるまで本当に健康面に注意して幸せに生きてほしいという願いがあるから、そこで本気度を出していただきたいと思います。</p> |
| 堀田教育長 | <p>めのだけ小学校に体育専科の先生がいらっしゃいますが、県からの加配をいただいて専科ということでやっています。これを市全体に増やせとなったら当然、市で雇っていかなければいけません。</p> <p>市全体のことを考えたときに、工夫して鹿北小学校は乗り入れ授業をしていました。中学校の体育の先生が小学校も教えます。部活動も鹿北はそれをやっています。今おられる人材でどれくらい体力向上ができるかは今後検討していきたいと思います。教育委員会としてその課題をどう工夫するのか。県に教員がほしいと言っても直ぐにはくれません。なかなか入ってきませんので、教育委員会で工夫していかなければなりません。</p> |
| 野中委員 | <p>英語についてはとにかくどうにかしなければということで、教育委員会の主導で先生方を集めているいろいろやりました。それを体育に置き換えて、体育のほうでもやるのは可能だと思います。</p> |
| 早田市長 | <p>体力は県平均を下回っているものがありますが、学力は小学校も中学校も県平均を全部上回っています。やり方を体力関係でも同じ取組をしていけば、県平均を上回ってくるのではないかと思います。</p> |
| 上田委員 | <p>二極化が進んでいると教育長からもありましたが、社会体育に入って一生懸命、体づくりしている子どもはどんどん体力が伸びていると思いますが、そうではない子どもたちがたくさん増えてきたという現状がありますから、その子どもたちにどういう手立てをしていくかというところだと思います。</p> <p>さっきも出ていましたが遊びをとおしていかに楽しみながら体力をつけるかという工夫が必要だと思います。</p> <p>以前、私の子どもが三岳小学校にお世話になっていましたが、10 分間の休み時</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>間に子どもたちが一齐に出てきて、いっぱい遊びます。そしてチャイムが鳴るとまた一齐に戻ります。それが毎時間、昼休みも同じです。その後、私も三岳小学校で勤務しましたが、何十年経っても同じ状態が続いていました。</p> <p>本当に外で遊ぶ楽しさや、皆で仲間づくりして遊ぶ面白さみたいなものを学校の先生方に工夫していただきたいと思います。</p> |
| 早田市長 | キーワードは「楽しさ、遊び」になりますね。 |
| 野口委員 | 山鹿市の小学校は昼休みの時間は長いですか短いですか。 |
| 吉野首席教育審議員 | 山鹿市内のそれぞれの長さはそんなに変わらないと思います。1日の教育課程で1時間目から6時間目で下校が決まっていますので、他所と比べたことはありませんが、山鹿市が特に長いとか短いというのはないと思います。どこの学校も同じ時間ぐらいはとっていらっしゃると思います。 |
| 野口委員 | 山鹿市が昼休みはたっぷりあって、運動場でよく遊んでいるという姿を見たいですね。いろいろ研究会がどうのこうのとしわ寄せがくるので、まさか昼休みを短くはしていないですよねということを確認したいのです。 |
| 堀田教育長 | とても思いは分かりますが、あくまでも学校に居るときは学校の管理下になります。昼休みに子どもたちを外に出して遊びなさいとなったときに、もし事故やケガがあれば大変です。管理下においている登下校も同じです。子どもたちの外で遊んだ時の事故は、災害見舞金などは付いていますが、非常に学校の先生方はピリピリされています。前は一緒になって先生も遊んでいましたが、工夫していかないと、何かあると学校の責任と言われる時代になりました。 |
| 野中委員 | <p>自然体験活動が非常に減っています。それを学校の中で仕掛ける場面も減っていると思います。ある方がおっしゃっていましたが、集団宿泊で野外活動と言いますけども建物あるところに連れて行って、ちょこちょこっとやるぐらいのことです。そういうことでも鹿北や菊鹿の山でもできます。そういうことができるようなことをやっておかないと体を動かすことに抵抗がある子どもしかでききません。</p> <p>私はすごく運動が苦手な人ですが、嫌いではないです。あんまり積極的にしようとしません。山歩きとかしますけど、やっぱり自然の中に子どもたちを帰してやる場面というのを、きっかけは学校で作って、実際に動かすのは地域の大人であり、そういう場を行政としては作ったらどうかと強く思います。</p> |
| 早田市長 | <p>さっき言いました健幸都市宣言も福祉部が担当でやっていますが、宣言した後は1年ぐらいかけて教育委員会もそうですがいろんな事業を考えてもらいます。</p> <p>ですので、教育委員会もしっかり考えて予算も確保してもらえらると思います。いろんな研究をして、良い事業を作り上げてもらいたいと思います。</p> |
| 上田委員 | 公民館活動の中で子どもたちが参加できるプログラムは幾つぐらいあるのか、実際、子どもたちが社会体育に何かの事情でいけない子たちは、そういうところに参加して体を動かすというようなプログラムはどのくらいあるのでしょうか。 |
| 早田市長 | <p>予算査定をする時に、大人のはつらつ100年塾などいろんな講座があります。高齢者向けの講座を、部署でまたがって似たようなことをしています。それをこの間の予算査定の時に職員の皆さんと議論をして、何で年齢制限を掛けるのか、65歳以上でないといけないのか、という議論をしました。</p> <p>そういう中で講座によっては子どもたちが参加できないような講座があるかも</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>しれませんが、できそうな講座は子どもも年齢関係なく複合してもいいのではないかと思います。その中で部署がまたぎますので、どこがやるかが部内で議論があるかと思います。私は年齢制限関係なくできるのではなかと思います。それは、体力だけではなく文化系もあります。</p> <p>もう一つ、公民館についてですが、公民館は普段は鍵がかけてあります。大人の集会をされるときに開放されます。そうではなくて普段から開放して、例えば気軽に子育て世代のお母さんたちが畳の部屋で話したり、料理を作ったり、子どもが集まって遊んだりなど開放された公民館づくりも他所でもありますが、いいと思います。そういうことを研究しながら進めていけばいいと思います。</p> |
| 堀田教育長 | <p>公民館も分かりますが、子ども課がしていますが放課後学童です。ここに注目しています。以前、教育委員会にあった時は関係者を集めて、部屋の中で勉強させるだけではいけませんと、3時間4時間と時間を過ごしますので体力向上を含めて何人かに話しました。これから放課後学童の利用者はもっと増えていきます。そこを子ども課も含めて議論していく必要があると思います。</p> <p>放課後学童の時間はとても大事で公民館と同じようなものです。</p> |
| 早田市長 | <p>学童の充実ですね。</p> <p>その他に執行部からは何かありませんか。</p> |
| 大林総務部長 | <p>いろいろご意見いただきましてありがとうございます。</p> <p>私は市長部局の人間ですけれども、今、ここに示されているいろんなデータはおそらく教育関係の方は知る情報だと思えますが、やはり子どもの体力向上は学校だけではできないと思います。</p> <p>まずは親御さんたちもこの状況を知るべきではないかと思います。ご自分のお子さんたちが体力の状況がどういう水準にあるのかということを知った上で、学校であったり地域と一緒にあって親御さんたちも取り組んでいかないと難しい面があるのではないかと思います。</p> <p>その中でどういうやり方がいいのか、あるいは場所の問題や人の問題にも及んでくる気がいたします。</p> <p>そういうことがこの総合教育会議の中でご意見としてまとめれば、より建設的な議論として役立つのではないかと思います。</p> |
| 野中委員 | <p>子どもの体力のプロフィールは通知表みたいな感じで渡ってはいるはずですが。問題はそこをどう読み取って繋げていくかということをおっしゃっていただいたと思います。</p> |
| 中尾教育部長 | <p>私の個人的な意見も入りますが、先ほど教育長が言われたことで被るところもありますが、スクリーンタイムの増加や運動する子としない子の二極化、遊ぶ機会や時間を考えますと土日は地域や家庭で運動や遊びをする中で、時間と子どもたちが寄っているのは学童だと思います。</p> <p>学童保育で運動ができればいいのですが、なかなか今の学童の場所ではできないということで、全国的にはデータはありますが学校の中で学童をしているところもあります。保護者からみれば先生が見るか見ないかは別としまして、学校の中で学童をやって、そこで運動をするというのは一つの方向性として検討もできるのではないかと思います。</p> |

| | |
|----------|--|
| 早田市長 | <p>ずっと話を聞いていますと、キーワードは楽しく、遊びをどう盛り込んでいくか、その中で学校の先生によって差が出てきているのではないかということで、学力みたいに体力関係もしっかり取り組んでおられる先生のやり方をまねするわけではないですが、それを全校に広げられないか。それから学校が終わってからの学童保育の充実。その辺を地域の人たちとどのようにしていくのか。そのようなことではなかったかと思います。</p> <p>他に盛り込んでいくことはございますか。</p> |
| 堀田教育長 | <p>一つ成果が上がったと思ったことは、幼稚園に1か月に1回程度、幼児から正しい体力をつけようということで体操教室をやっています。とても好評です。ボランティアでされていまして、熊本から来られています。幼稚園保育園から来年もぜひ続けてくださいと言われます。</p> <p>ボランティアでしていただきましたが、旅費だけはだそうということでしていただきました。とても成果を出しました。幼稚園の先生も女性が多いものですから、それを見ながら、自分たちも毎日来れないから今のうちに覚えてくださいということとでされていてとても好評でした。</p> |
| 上田委員 | <p>幼稚園の先生や子どもたちには好評かも知れませんが、一つの体操や器械関係に特化した指導というのは体力向上には繋がらないという話もありますので、その辺はいろいろ調べてほしいと思います。</p> <p>外で楽しく遊ぶということが、一番体力がつくそうです。</p> |
| 早田市長 | <p>いろんなやり方があると思います。それを是非職員の皆様が全国のいろんな事例を調べていただいて、いいところだけもらって山鹿流にするということをやっていたきたいと思います。</p> |
| 早田市長 | <p>他に何かご意見等はございませんか。</p> |
| 各委員 | <p>ありません。</p> |
| 早田市長 | <p>それでは、これで意見交換を終了したいと思います。</p> <p>その他で事務局から何かありますか。</p> |
| 事務局 | <p>ありません。</p> |
| 早田市長 | <p>それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>以上で議事を終わります。</p> |
| 永田教育総務課長 | <p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和5年度第2回山鹿市総合教育会議を終了します。</p> |